

# 来週の『売り物』記事はこれ



2016年2月5日号

毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

## 親を責めない 幼児虐待ゼロへの挑戦

7日(日)



幼児虐待死の痛ましいニュースが続いています。たとえ死には至らずとも、虐待は子供の心に根深い傷を残します。虐待が起こる前に予兆をつかみ、未然に防ぐことはできないのでしょうか。官民一体で徹底して親を支えることで、虐待予防の成果を上げつつあるのが大分県中津市です。2008年度から始めた追跡調査では、市内で生まれた子供のうち、児童相談所の介入が必要なほどの虐待を受けた子供の割合が1%台にとどまっていることも判明しました。欧米の予防対策が進んだ地域並みに低く、主導する井上登生さんの小児科医院には、塩崎恭久厚生労働相も視察に訪れています。「虐待は親を責めても何も解決しない。大事なのはこじれる前に親に寄り添ってストレスを減らすこと」。井上さんたちの取り組みを追いました。



日曜朝は『S』で始まる——。ストーリーにご期待下さい。

## 「忘災」の原発列島

### 高浜原発再稼働を容認した福井地裁決定に三つの疑問

夕刊2面特集ワイド 10日(水)



関西電力高浜原発(福井県高浜町)＝写真＝の3号機が先月末に再稼働しました。4号機も今月中の再稼働を目指すそうです。福井地裁は昨年4月に再稼働差し止めを命じる仮処分決定を出しましたが、関電の異議申し立てを受けて、昨年暮れに一転して仮処分を取り消す決定を出しました。事故の危険性が「社会通念上無視し得る程度まで管理されている」というのが理由なのですが、本当に十分に安全で、国の審査は万全なののでしょうか。疑問の声を上げる専門家とともに考えます。

## 別所哲也のスマートトーク

おんなのしんぶん  8日(月)

「おんなのしんぶん」が始まった2013年12月から隔月で連載してきた対談コーナー「別所哲也のスマートトーク」は、今回が最終回です。ゲストは、別所さんと旧知の仲という奥野史子さん。シンクロナイズドスイミングの五輪メダリストで後進の指導にもあたっている奥野さんに、リオ五輪の展望やシンクロを取り巻く現状、3児の母としての思いなどを語っていただきました。ご期待ください!



## がん社会はどこへ

### 第4部 「命照らす緩和ケア」

くらしナビ面 10日(水) から3回



緩和ケアとは「命に関わる病による精神的・肉体的苦痛を和らげること」です。主に対象はがん患者とその家族となります。従来は「死にゆく人のケア」というイメージが強かったのですが、今はがんと診断された初期からのケアが重要とされています。まず初めに、緩和ケアの基本と医療現場で行われている内容を紹介し、現状の課題を探ります。

## 美・化粧品カウンターの使い方 くらしナビ面 9日（火）

スキンケアやメイクに関する情報の宝庫である化粧品ブランドの対面カウンター。「商品売りつけられるのでは」「何も買わないと気が引ける」と近寄り難さを感じる人もいるかもしれません。実際には、メイクのアドバイス、スキンチェック、頭皮チェックといったさまざまなことを試すことができます。記者がカウンターを訪ね、体験してみました。



### プロジェクト・リーダーが明かす「開発秘話」

## 発進！ 下町ボブスレー

オピニオン面 【そこが聞きたい】 10日（水）



東京都大田区の町工場から生まれた国産初の競技用ボブスレー。2018年の韓国平昌冬季五輪で中米のジャマイカのチームに採用されることが決まりました。開発に着手したのは15年前のこと。40社ほどの町工場が集まり、炭素繊維の開発や研磨技術など、それぞれの得意分野を生かして完成にこぎ着けたといいます。開発の中心となったプロジェクト・リーダーの細貝淳一さん(49)に開発秘話を聞きました。

時代が見える——。オピニオン面にご期待ください。

## 敗戦・占領期からの出発

朝刊文化面 16日（土）

「創作の原点」は日本バレエ界の発展を音楽面で支え、昨年「指揮者としての還暦」を迎えた福田一雄さん（84）。学習院出身でピアノの名手だった福田さんは、バレエの伴奏を務めているうちに公演指揮や楽譜の研究まで手掛けるようになった「変わり種」の音楽家です。敗戦からの復興を級友と誓った少年期や、進駐軍にも重宝された青年期の思い出を交えつつ、舞台芸術の豊かさを語ります。



販促宣伝部（電話 03-3212-1241） E-mail: [urimono@mainichi.co.jp](mailto:urimono@mainichi.co.jp)